カルメル
霊性センターニュース

フラ・アンジェリコ画　「サン・ドメニコ大聖堂の多翼祭壇画」

2021 年 11 月　　380 号

11月号　【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

【『キリストは生きている』より 125-126】

生きているのであれば、このかた（キリスト）はあなたの生活の中に現に存在し、今この瞬間もそこを光で満たしてくださるはずです。もしそうであるなら、孤独や捨ておかれることはもう決してないはずです。だれもが去ってしまったとしても、約束どおりこのかたは、とどまっておられます。『わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる』(マタイ 28・20)。目には見えずともその存在をもってすべてを満たしてくださり、あなたがどこに行こうともあなたを待ち続けておられるのです。すでに来られただけでなく、今も来ておられ、これからも毎日来続けてくださるからです。いつも新たな地平に向かって歩むよう、あなたを招いているのです。

喜びにあふれた、幸せなイエスを黙想してください。勝利を収めた友であるかたとともに喜びなさい」。

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

キリスト教放送局 FEBC のご案内・・・・・・・・３２

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

宇治カルメル会修道院

第三巻

第四十五章　誰でも信用してはならない、人は言葉の過失を犯しやすい

１　子

《「主よ、患難の時に助けてください。人間の助けは期待できない」(詩編60・13)。私は、何度、信用していた人から裏切られ、そうでないと思っていた人に真実を見いだしたことでしょう。人間に頼るのは空しいことです。誠実な人の救いはあなたにあるのです。主なる神よ、私たちの出会うことすべてにおいて、あなたは祝せられますように。変わりやすい私たちは、しばしば迷い、しばしば考えを変えてしまいます。

２　忠実な友

欺瞞(ぎまん)や困惑に一度も陥らないほど、よく警戒する慎重な人があるでしょうか？しかし主よ、あなたに委託し、単純な心であなたを求める者は、容易に迷うことがないでしょう。そして、たとえ患難にあい、非常に困難に陥っても、すぐあなたに救い出され、あなたの慰めを受けます。なぜなら、あなたは、より頼む者を最後まで見捨てられることはないからです。友が不幸の時にも、友情を失わない忠実な友は少ないものです。何事においても忠実そのもののあなた以外、より頼むお方はいません。

３　人間のもろさ

「私はキリストに心の基(もとい)を置き、キリストの上に安堵(あんど)する」(聖アガタの言葉)と言ったあの聖なる霊魂は、そのことをどれほどよく知っていたことでしょう。私もそう言えるなら、人間への恐れにたやすくうろたえることもなく、また言葉の矢に動揺することもないでしょう。誰が未来を予見し、誰が将来に起こる悪を予防できるでしょうか？前もって知っていたことにもしばしば傷つけられるなら、思いがけない出来事に深く傷つくのは当然です。それなのに、あわれな私は、なぜもっと慎重に自分のために心を配らなかったのだろうか？なぜ、これほど容易に他人の言葉を信じたのだろうか？

ああ、しかし、私たちは人間です。たとえ、ある人々から天使のようだと思われていても、もろい人間です。私は誰を信じたらいいのでしょうか？あなた以外の誰を信じたらいいのでしょうか？あなたは誤ることなく、あざむくことない真理として存在されます。ところが「人間はすべて嘘をつく者」(詩編116・11)、弱い者、変わりやすい者、言葉の過ちを犯しやすい者です。だから、真実らしい言葉であっても、すぐに信じてはならないのです。

2021　聖ヨセフ年―11　　死者の月

このページをくるころは紅葉の饗宴に招かれているでしょうか。温暖化、そしてコロナ禍で季節感も薄らいできます。でも時間は確実に流れてゆくのを感じる季節です。諸聖人、死者の日を祝う 11 月は教会の伝統では死者の月とされています。

カルメルの諸聖人たちは、死に関してどんな言葉を残しているでしょう。

＊「すべては過ぎ去る　神のみ変わらず」と多くの人々の心をとらえるマドレ・テレサの祈りが響き渡ります。

＊「いのちの夕べに、私は、から（空）の手で主のみ前に出ることでしょう。私は、自分の業を数えていただきたいとは願いません。主がご覧になれば、私たちのすべての正義さえなお汚れていますから。」

＊「私は死ぬのではありません、命に入るのです」と信仰うちに確信するテレーズは、「もし、神様が私の望みを聞き入れてくださるなら」…と前置きして「私は地上で善を行いないながら、天国を過ごしましょう。」

＊「この世のすべては過ぎ去ります。小さいテレーズも‥‥でもテレーズは帰ってくるでしょう。」

＊「死を前にして、私たちは自分の人生、それまでの生き方への悔いを痛切に感じ、神への不忠実を思い出し、神の裁きを恐れるでしょう。しかし私たちを裁かれるその方が、私たちをいつもみじめさから救い出し、赦すために『私のうちに住まわれています』」。　～三位一体のエリザベット～

＊　「私たちが、聖霊の望みに忠実に生きれるように
聖母よ、助けてください。
今ここに、あなたが私に期待される愛を捧げます。
今日も、そして明日も、最後の息を引きとる時まで、
この愛に忠実でありますように。」

～マリー・ユジェーヌ神父 ocd～

これらの言葉に生活の中で養われて、
11 月の日々を過ごすことができますように･･･

伊従　信子
ノートルダム･ド･ヴィ

創造主への賛美（47）

九里（くのり）　彰

自己離脱とは、愛の離脱であり、キリスト以外のものを愛するのをやめ、ただひたすらキリストを愛していくことにあると思われる。もちろん、「キリスト以外のものを愛するのをやめ」とは、それらのものを愛してはいけないということではなく、「何をあなたは愛の中心に置いているか」という意味で取らなくてはならない。

わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。（マタ 10・37）

両親や子供を愛してはいけないということではなく、何よりもキリストを愛さなくてはならないということである。それは、キリストは被造物の次元を超えているからで、何よりもキリストを愛さなくてはならないということは、「神を何よりも愛さなくてはならない」ということになる。

自然的な愛は、自愛心、自己愛の延長とも言える。人や物や仕事や趣味などを愛するのは、畢竟、自分を愛しているからであり、自分のためにそれらの人や物や仕事や趣味などを愛しているとも言えるからである。自己愛の限界を超えることはない。けれども、真実、神を愛するとき、すべてを愛される神の愛の中に私たちは取り込まれ、神の愛のうちにすべてのものを、人や物や仕事や趣味を愛することが可能となるのである。

自愛心を捨てることは、至難の業である。自愛心に凝り固まる時、すべての関係、すなわち神と人、人と人、人と物の関係が、気がつかないうちにゆがんでいく。先の言葉に続けて、キリストはこう言っておられる。

自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのためにに命を失う者は、かえってそれを得るのである。（同 10・38-39）

自愛心から離れること、そこから自由になることは、まさに自分を捨て、自分に死ぬ時に、神の力、恵みによって、パラドクシカルに実現されるのである（自己離脱もまた神の力、恵みによるが）。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（162）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

監禁されていた時の誘惑②

その後、「厳しさでは軟化しないのを見てとると、より深刻な時期が彼を訪れます。彼らは倦むことなくヨハネに助言や勧告をし、快適な修室や図書室を、さらにはすでに触れた院長職も与えよう申し出ました。他の人は、金の、とても高価な十字架で彼を誘惑しました。どうして十字架ヨハネがそんなものをほしがるでしょうか。その時は、「詰まったやすり」も答えました。「無一物のキリストを求める者には、金の宝石など必要ではありません」と。

このような外からの攻撃とは別に、彼の心の思いが戦いの場となりました。ずっと後で、彼に導かれた姉妹たちの一人に信頼して、こう告白しています。「娘よ、あなたに言いますが、ときどき私について人々が何といっているかを考えると、悲しみに襲われました。私は始められたこと（訳注：改革運動）に背を向けつつあるのではないか。聖なる母さま（訳注：アビラの聖テレジア）のことを考え心が痛みました」。そしてこう付け加えました。「神が私を試そうとされたのだ。けれども憐れみ深い神は、私をお見捨てにはならなかった」と。

この試みの状態を透かして見れば、執拗な誘惑と監禁状態は、牢の中で詩編「流れのほとりに」のロマンス体詩を書かせることになります。流刑者のバラードと呼ばれているこの詩編の抑揚には、彼の心境が投影されています。

異邦人たちは楽しんでいた
彼らの中に　私は囚われていた　/ 彼らは　歌について　私にたずねた
シオンで歌っていた歌について
「シオンの歌を　一つ歌ってみろ、 / どんなものか　聞いてやろう」
「ああ何ということか。この遠い異国の地で
シオンを思って泣いているのに。
シオンに残してきた　あの喜びの歌を　/ どうして　私が歌えようか？」
もし　異国の地で　私が楽しむなら、
喜びの歌は　忘却の中に　投げ捨てられるように！
私が住んでいる　この地で
もし　おまえを忘れるようなことがあれば、
言葉を話す舌は
上あごに　はりついてしまうように。（33～50 節）

（P. 九里訳）

年間 第３２主日

（マルコ１２：３２－４４）

「皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

本日のマルコによる福音は、キリスト者の生活はどうあるべきか、そしてどうあってはならないかの両面を教えています。律法学者は律法の専門家でした。彼らは自分の利益をはかる態度に対して咎められています。

イエスは、律法の先生たちの偽善的な振舞いに弟子たちの注意を引きます。律法学者は神の掟を人々に教える人たちでした。彼らは律法を「愛をこめて」心で教えることはなく、「言葉で」口でだけ教えました。真理について教えましたが、生活は全く逆でした。彼らは長い衣を着て広場を歩き回り、人々の挨拶を受け、会堂や宴会場で上座に座るのを好みました。自分の知識や才能を他者に奉仕することや、分かちあうためではなく、得意がるために使っていたのです。イエスは、「このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる」と警告します。

また他方で、イエスは皆が賽銭箱にたくさんのコインを入れたのに、二枚の少額の銅貨を入れた貧しいやもめを誉めました。たくさんのお金のほうが多くのことができると考えるのは至極当然のことです。慈善事業をたくさんできますし、教会やその必要に対して大きな助けとなることもできます。確かにこのように考える人にとってはやもめの二枚のコインは何の役にも立ちません。この人たちに対してイエスは言います、「この貧しいやもめは、基金に貢献した全ての人よりたくさん入れたのです」。イエスはやもめの行為に弟子たちの注意をひくことで、私たちが貧しい中から分かち合うときに、神のみ旨の表れをどこに探すべきかを教えています。もし今日、神が全人類のために宇宙に置いた物を私たちが分かち合うならば、貧困も飢餓もなくなるでしょう。全ての人の為に十分あり、他者のためにもある程度残されているはずです。

分かち合いと施し、そして一致の実践は、私たちに与えられているイエスのみ心のしるしの一つです。

(Sr. Paulina)

年間 第33主日

（マルコ１３：２４－３２）

「それらの日には、このような苦難の後、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ち、天体は揺り動かされる。」

とても恐ろしい天変地異を感じさせるみ言葉です。世の終わりを暗示しているとも考えられます。こんな日が決して来ないことを願っていますが、このみ言葉は、この世というものが、創られた有限の世界であるということを教えてくれています。美しく、広大な大地や宇宙ですが、それは神のように永遠ではないのです。滅びる可能性をもった有限の世界なのです。

地震や台風などに毎年悩まされている私たちは、体験として、この世が変わりやすい不安定な世界であることを知っています。また、昨今の新型コロナの流行により、私たち人間はいかにはかない存在か、人間が作り上げてきた社会がいかに脆弱なものであったかということを痛感させられました。

み言葉やこれらの現実は、私たちが皆、小さな、か弱い存在であることを認め、謙虚になるように促していると思います。そのような弱い存在だからこそ、またこの世が壊れやすいものだからこそ、助け合ったり、いたわり合ったり、大切に保護したりしなければならないのだと思います。

そのような中で、私たちはどこに焦点を当てて生きたらいいのでしょうか。イエスは言われます。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

滅びゆくはかない世界に生きている私たちは、同時に、この決して滅びないという神の言葉、イエス様の言葉もいただいているのです。滅びゆく私たちであっても、この神の言葉、イエス様の教えと模範を生きるなら、光りが差してきます。たとえこの世が全部滅んだとしても、神様は決して滅びません。この神様のご意志を生きることで、この世は平和に保たれ、美しさを保つと思います。そして、そうするように努めた私たちは、必ず、イエス様と同じように、神様の永遠の懐に抱かれて生きるようになるはずです。愛を貫いて死んだイエス様が永遠に生きる者となったように。

不安定で、不確かなこの世に不安を感じる時にこそ、神様への信頼と朽ちることのない愛を実行していきましょう。「愛は決して滅びない」のですから（1コリント13・8)、私たちの足取りもしっかりするはずです。

（今泉健 神父）

王であるキリスト（B）

（ヨハネ１８：３３－３７）

「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た」

イエス・キリストは、万物の王、すべての民の王、あらゆる時代の王です。しかしイエスの王職は、前代未聞のものです。イエスは、はじめ（アルファ）と終り（オメガ）であり、過去、現在、未来に来られる方です。

イエスの裁判の時、「お前がユダヤ人の王なのか」というピラトの問いかけに対し、イエスは、「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た」と答えました。ピラトは、イエスの王職の霊的または超越的な性質を理解できません。イエスは、自分が王であると認めますが、この世に属していないと言います。つまり、この世の権力と支配の基準に即していないのです。イエスの王国は、愛の黄金ルールを土台とし、征服ではなく愛の奉仕を通じて統治されます。主の権威は、武力に代わり、真理に根ざしています。イエスは、永遠の王国と、神と、子どもたち全員に注がれる神の愛に関する真理を証しするために来たとも告げます。

イエスが証しするのは、イエスの御父の神が私たちを愛する御父でもあるので、私たちは皆、神と一つとなった子どもである、という真理です。キリストは、ご自分の生涯、教え、使命、受難、死、復活を通じて人に奉仕するために来られました。救い主・贖い主・王であるキリストは、「永遠の愛が支配する」という真理に、自分を捧げて奉仕するのです。

キリストの王国には終わりがなく、決して滅びないと心の底から信じることさえできれば、闇が至るところを覆いつくし、この世が福音を捨て去ってしまったと思われても、キリストに忠実に従っていくと私たちが高らかに宣言し、キリストの王国のために働くことを妨げるものは何もありません。最終的には、キリストと福音が勝利を収めます。私たちの務めは、頭と心と手を一緒に合わせてキリストの王国の建設のために働くことです。「主よ、あなたの御国が来ますように！」と絶えず祈りましょう。

(Sr.Paulina)

待降節 第１主日

（ルカ２１：２５－２８、３４－３６）

待降節を迎えて、教会の暦は一般の暦より１か月少し早く、新しい年となりました。主の到来を待ち望む時期、特に待降節の始まりでは、世の終わりの主の到来を待ち望む、終末的な余韻を残しつつ、救い主の到来、主の降誕を待ち望む時へと入ってゆきます。

今日の福音は、太陽と月と星に徴が現れる・・・と終末の時の有様についてイエスは語られます。天体に徴が現れ、天体が揺り動かされ、人の子が栄光を帯びて雲に乗って来られるのを人々は見る。このようなことが起こり始めると、あなたがたの解放の時は近いからだと言われ、終末の時のことに注意を払う様にと促されます。

イエスがこの世に来られたのは、人々を滅ぼすためではなく、人々を救うためでした。救われるように滅びないようにと、弟子たちに留意するよう促されます。放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないよう注意しなさいと。世の終わりの艱難から逃れて、人の子の前に立つことができるようにと。いつ世の終わりが来たとしても良いように、いつも目を覚まして祈りなさいということなのでしょうね。

イエスは弟子たちに対し、世の終わりがすぐ訪れないにもかかわらず、世の終わりが近づいた時の有様を述べ、注意し、人の子の前に立つことができるように言われました。これらは弟子たちに言われた言葉ですが、ご自分の言葉が書き記され、後世に伝えられ、書物として聖書として、今語られる言葉として、人々に伝えられることを思い、望まれ、今日私たちに聖書のみことばを通して語られるのですね。

私たちは、今をどのように生きているのでしょう。心が鈍くなっていないでしょうか。いつ神様のみもとに召されても良いように、いつ世の終わりが到来しても良いように、私たちは準備ができているでしょうか。この準備をしつつ、新しい年、神の子イエスの到来を待ち望み、良い準備のうちに主の降誕を迎えることができますように。

（Fr. 古川利雅）

いのちの言葉　１１月

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。
（マタイによる福音書 ５・９）

マタイによる福音書は、その当時、ユダヤ人社会で暮らしていた一人のキリスト者の手によって書かれました。そのため福音書には、ユダヤ文化やユダヤ教の伝統にもとづく表現が多くみられます。

例えば、５章では、イエスは新たなモーセのように描かれ、山に登って神の律法の本質である「愛の掟(おきて)」を告げます。また、その教え（愛の掟）を厳粛なものとするために、福音書は、イエスが「師」のように座し、教えを説いたと記しています。

さらに、イエスこそ、自らが告げる教えの最初の証人(あかしびと)となられます。それがもっとも明白に示されるのは、イエスが、あの山上の垂訓で「幸い」についてお告げになる時です。イエスのご生涯は、これらの「幸い」を生きることそのものでした。イエスの言葉は“祝福”と“喜び”の実り、まさに「幸い」というべき、キリスト教の革新的な愛をはっきり示すものでした。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

聖書で言う、平和 （ヘブライ語でシャローム） は、人が、神と自分自身、さらに自分を取り巻く、すべてのものと調和のうちに生きる事を意味します。実際、今日でも、人々は、満たされた人生を互いに願い「シャローム」と言って挨拶を交わします。平和は、何よりもまず、神からの贈り物です。しかし同時に、私たちがそれにどう応えていくかにかかっているとも言えます。

「幸い」の中でもとりわけ、この「平和」は、より能動的なものです。私たちを無関心から脱却させ、自分から先に知性、心、腕を用いて周囲に働きかけ調和をもたらすよう招くからです。また、他者を思いやり、利己主義によって生じた個人的・社会的な傷やトラウマを癒すようにと、私たちの努力を促すものです。

神の子であるイエスは、人々を御父と和解させ、地上に兄弟愛をもたらすために十字架上で命を捧げ、その使命を全うされました。このように、たとえ誰であっても平和を実現する人は、イエスに似たものとして、イエスのように「神の子」とみなされるのです。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

イエスの足跡をたどりながら私たちも、周囲で起こる大小の争いを終わらせ、平和な日々に貢献できるのではないでしょうか。そのためには、友情と連帯で繋(つな)がることも必要ですが、さらに、他の人に助けの手を差し伸べるだけでなく、他の人の助けを喜んで受け入れることも大切に思えます。

デニスとアレッサンドロ夫妻は語っています。「私たちは、出会ってすぐお互いに好感をもち結婚しました。子どもを授かったこともあり、はじめはとても幸せでしたが、時が経つにつれ色々なことがあり、だんだん二人の間に会話がなくなり、対立するようになりました。別れずにいようと決めたのですが、いがみ合いは続きました。ある日、友人夫婦から『危機にある夫婦のためのサポートコース[1]に参加してみないか』と誘われ、そこで、私たちが出会ったのは、単なる知識豊かな専門家ではなく、『家族のための家族』でした。彼らに状況を話し、わかってもらえた！と感じました。この出会いは光となりましたが、それはごく最初の一歩に過ぎませんでした。その後も同じ失敗を何度も繰り返したからです。でも以前と違うのは、気づいたときには、お互いを大切にしようと努め、やり直せることです。それに、新しい友人たちと一緒に前進できることも大きな助けとなっています。」

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

キアラ・ルービックはこう語っています。「イエスの平和は、私たちに『新しい心』と『新しい目』を要求します。すべての人を愛し、普遍的な兄弟愛への候補者を見出すには、新しい心と目が必要だからです。でも、こんな思いも心に沸くかもしれません。それなら『同じマンションのあの怒りっぽい人も？　職場で私の出世を邪魔する同僚や、別の政党の人も？　敵のサッカーチームを応援する人も？　他の宗教の人や外国人に対しても、みんなに対してそうしなければならないの？』と。もちろんそうです。どの人も私にとっては兄弟姉妹ですから。平和は、一人ひとりの隣人との関係から始まります。イジーノ・ジョルダーニ氏は、こう記しています。『悪は人の心から生まれます』、『戦争の危険を取り去るには、それを生み出す元となる攻撃的な姿勢や搾取、利己主義を、人の心から取り除かなければなりません。人の良心を築き直さなければなりません』[2]と。

私たちが変わるなら、世も変わるでしょう。…大切なことは、私たちを一つに結ぶものを強固にし、平和のメンタリティーを広め、すべての人の善のためにともに働くことです。…最後に勝つのは愛です。愛は、他の何にもまさって、強いものだからです。

今月は、私たちも、新たな文化のパン種となって『平和と正義』を生きるよう努めてはどうでしょうか。私たち自身、また、周りの人も、『新しい人』に変えられる体験となるでしょう」[3]と。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

レティツィア・マグリ

[1] 10年の“光の道程”https://www.focolare.org/famiglienuove.
[2] ジョルダーニ著　『戦争の無益』2003年
[3] キアラ・ルービック、「いのちの言葉」2004年1月

連絡先：フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　２０２１年９月１１日

特別な日、2021年9月11日土曜日

総会中の教皇フランシスコとの謁見

跣足カルメル修道会総会の参加者全員は、教皇フランシスコに9月11日に謁見することができました。謁見は、11時に予定されており、修道士たちは徒歩や公共の交通手段を使ってバチカンへと向かいました。彼等は、サンピエトロ大聖堂近くの使徒宮殿の接見ホール、サラ クレメンティナに案内されるために10時15分までに宮殿のブロンズドアに着いていなければなりませんでした。

教皇が到着されると、私たちの新総長ミゲル神父は、彼と跣足カルメル修道会、女子修道会、カルメル在世会の名において教皇に挨拶されました。

「教皇様、今日私の同胞や姉妹たちとともに、母聖テレジアの教えに従い、私たちはイエスが担われる十字架と教皇様が担われる十字架をお助けし、遅れることなく傷つくことを恐れずに、報酬なしで王に献身する勇敢な騎士のごとく（自叙伝15:11）、私たちの修道生活をお捧げ致したく存じます。

私たちは、これをリジューの聖テレーズの言葉に従い、従順に後を振り向かずに、イエスを更によく知り愛するよう望み、またイエスが良く知られ愛されるために行いたく思います。」

注：この談話の全文はスペイン語でフェイスブックのページwww.facebook.com/CuriaGeneraliziaCSで見られます。）

教皇のお言葉は、総長のことばと響き合うように、「忠誠は、福音的価値と、あなた方のカリスマ、またあなた方が主と人々に自己の最善を捧げるのを妨げるものは何であれ、すべて捨て去る堅固な献身を要します。主との友情は、聖テレジアにとって主との親しい交わりであり、主に祈ることだけでなく、私たちの生き方を祈りにすること、そして聖アルベルトの会則が述べているように、キリストの献身的な従者、in obsequi Iesu Christi（心からイエス・キリストに従って生きること）として歩み、喜んで行うことです。神との友情は、沈黙、黙想、神のみ言葉を聴く内に成長し、炎となって日々培われていきます。」　注：この談話の全文は、https://press.vatican.va/content/salastampa/it/bollettino/pubblico/2021/09/11/0553/01221.htmlで見られます。

教皇のお言葉に士気を高揚されて、修道士たちは帰途に就きました。午後、私たちは総会で必要事項として虐待問題を取り上げ、それについて話を聴くためにカプチン会の司祭ヴィンチェンツォ　マンクージ神父をお招きしました。彼はカプチン会の総長で、バチカンの奉献使徒的生活会省の役職に就いておられ、私たちの総会に豊な経験を持って参加いただき、年少者や弱者の身体的、心理的、精神的虐待についても話されました。また教会法における進展動向を示し、教会法典の用語を定義し、教会法に触れる事態が生じたとき、どのように対応するべきか説明されました。

わたしたちは一日中真剣な、充実した総会の終盤を過ごしました。

（翻訳：小宮山延子）

糸巻き棒からペンへ（６９）

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

帰天の日は、暦によって改正されました。その当時まで、ユリウス・カエサルによって紀元前４６年制定された「ユリウス暦」が使われていました。これは、ひと月を３０日として１２回数えるもので、一年に５日ほど足りず、４年に一度閏年を設けていました。皇帝アウレリアヌスは、紀元２７０年に再調整しましたが、毎年、数時間失われるという不都合が生じました。そこでグレゴリオ１３世は、時を数える新しい方法、すなわち「グレゴリオ暦」を使用するよう命令しました。これは、今日に至るまで有効です。ずれを調整するため、暦から１１日を削除しました。それによって、聖テレジアは、１５８２年１０月１５日でなく４日の夜に亡くなったことになりました。

すでに触れたように、聖女の作品はすぐに出版され、他の言語に翻訳されました。彼女の娘たちもスペインの全地にあっという間に拡大し、ポルトガル、フランス、オランダ、イギリス等々に創立され、今日では全世界に広がっています。聖テレジアの著作の初版（1589）の序にあるルイス・デ・レオンの言葉は、私のものでもあります。「母イエスのテレジアがこの世にいた間、私は彼女を知らなかったし、会ったこともなかった。けれども今や、彼女が私たちに残した二つの姿によって、すなわち彼女の娘たちと彼女の本を通して、私は天国にいる彼女を知り、ほとんどいつも彼女に会っている」。今日、当時のように、この女性の真の精神を知ろうとする者は、二つの手段、すなわち、彼女の作品を読む道と、彼女の娘たちと交わる道を持っているのです。

カルメル誌　新刊案内

2021年 秋号 No.382

信仰生活(再)入門(14) 聖書に学ぶ祈りの道(6)
—「見ること」と「祈ること」
片山はるひ

道の霊性(7)—「熱心の道」と「キリストの道」
田畑邦治

「聖なるものとなる」よう呼ばれています
—アビラのテレサ教会博士授与五十周年記念に
伊従信子

孤独という美しい生き方　森 みさ

キリストの説かれた 幸いなる道(3)　九里 彰

霊的研究会講義録(13)－聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2021年 特集号
「向こう岸に渡ろう」
—パンデミック後の選択—

向こう岸に渡ろう
—四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し
中川博道

人類は新たに生まれねばならない
九里 彰

神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
—フランシスコ教皇さまの連続講話
「この世界をいやす」についての考察
松田浩一

同じ舟に乗る者たちとして
—『つながり』の霊性を求めて　若松英輔

何も咲かない寒い日—今を問う　大瀬高司

ご案内　1 冊 580 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760 円【580 円（+送料 180 円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,600 円）を下記へお振込み下さい

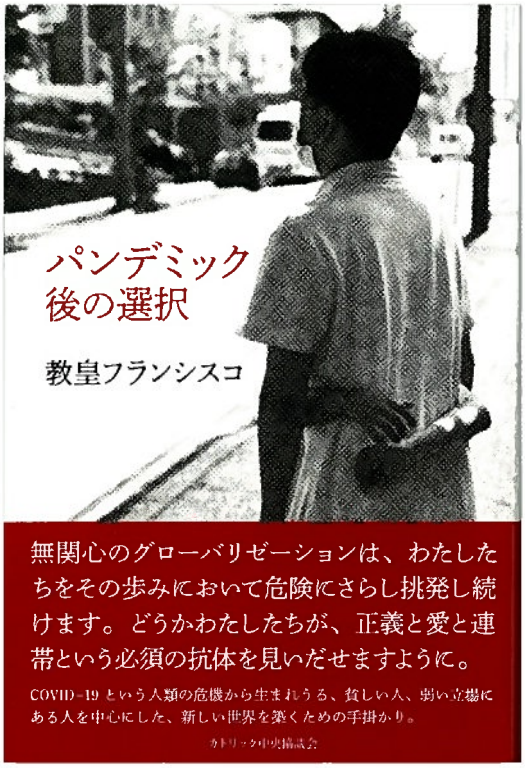
郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ
判型：四六・並製
ページ数：80 ページ
価格：本体 500 円（税込 550 円）
ISBN：978-4-87750-224-9
出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 3 月 27 日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020 年 3 月 28 日付）
- 新たな炎のように（2020 年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 4 月 12 日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020 年 4 月 12 日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020 年 4 月 17 日）
- エゴイズム――より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020 年 4 月 19 日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020 年 4 月 21 日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第 50 回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020 年 4 月 22 日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

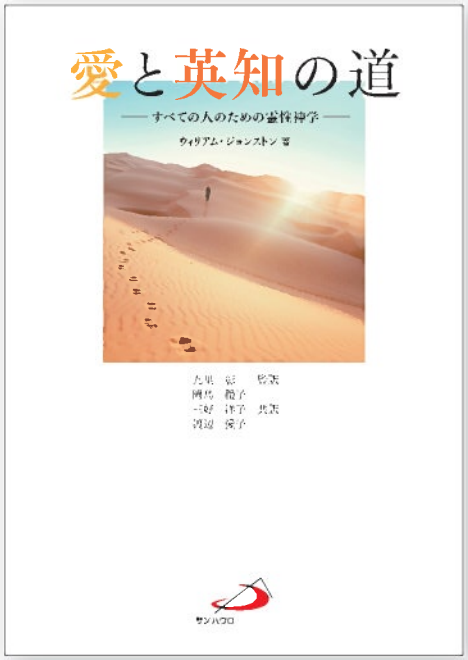
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

2020年のご案内

年間テーマ　手をとりあい、自ら歩み出す

大瀬高司 師

好評の 2019 年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

●アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
●知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
●かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
●聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
　杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
●新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
●いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
　吉川まみ（環境学者）

継続連載

●典礼暦と季節の味わい（応用編）
　柳谷晃子（食文化研究所主宰）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

○口座番号：００１７０－２－８４７４５
○加入者名：オリエンス宗教研究所
○ご購読料：７５００円（税・送料込）
○備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年 11 回、8・9 月合併号）7500 円（税・送料込）一部定価 600 円＋税

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601　Fax 03-3325-5322　https://www.oriens.or.jp/

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

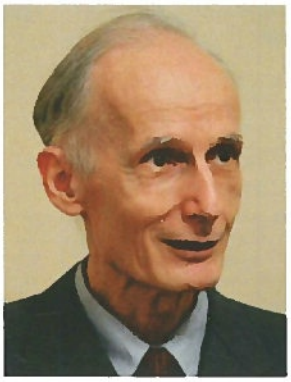
ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

わたしは神をみたい
いのりの道をゆく
マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス［Riesenhuber, Klaus］

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２１年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】
　　１２月２４日(金)～２５日(土) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会(土曜日１７時～日曜日１６時)　大瀬高司 神父

	２０２２年
１１月２７日(土)～２８日(日)	１月　８日(土)～　９日(日)
	３月１２日(土)～１３日(日)

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日１０時～１６時・昼食付) カルメル会士
　１１月１７日　１２月１５日
　２０２２年　　１月１９日　　２月１６日　　３月１６日

・一泊黙想会　(土曜日１７時～日曜日１６時)　カルメル会士

	２０２２年
１１月２０日(土)～２１日(日)	１月２９日(土)～３０日(日)
	３月１９日(土)～２０日(日)

・奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士
　１２月２７日(月)～１月　５日(水)

・青年黙想会(男女)　３５歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　２０２２年　３月２５日(金)～２７日(日)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　１１月　５日(金)～７日(日)

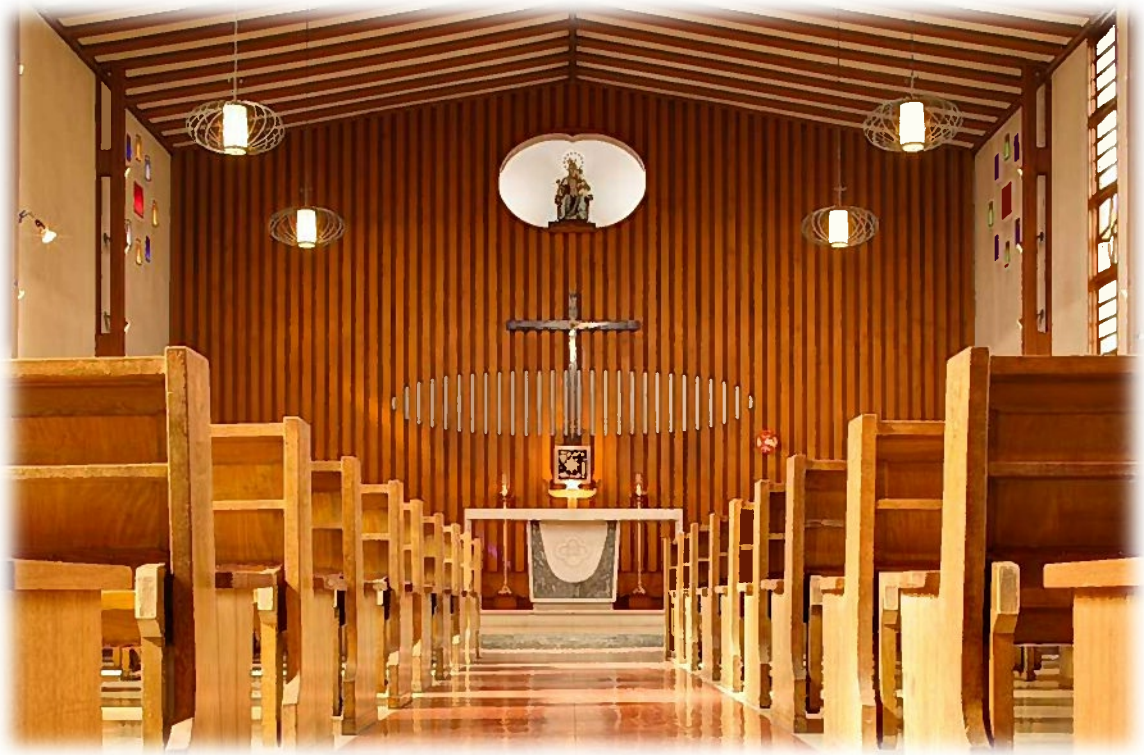
・カルメル会召命黙想会（対象男子）（土曜日１６時～日曜日１６時）カルメル会士

２０２２年

１２月１１日（土）～１２日（日）　　２月２６日（土）～２７日（日）

・特別黙想会（初日２０時～最終日１６時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

１１月１２日（金）～１４日（日）



＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊　間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021 年　4 月 10 日（土）～11 日（日）　16 時～翌日 16 時

6 月 12 日（土）～13 日（日）　〃

10 月 9 日（土）～10 日（日）　〃

12 月 11 日（土）～12 日（日）　〃

2022 年　2 月 26 日（土）～27 日（日）　〃

会費：¥5000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
TEL.03-5706-7355　FAX.03-3704-1789
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル召命黙想会

イエスの愛

日　時　：　2021年11月5日（金）16時 ～ 7日（日）16時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　召命を考えている、独身の青年男女（40歳まで）
定　員　：　８名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　５，０００円
締　切　：　2021年10月29日（金）
指　導　：　カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2021 年度)

１０/１より黙想会を再開致しました。
今後の状況により変更される場合があります。

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

１０/３０～３１

【聖書深読】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父

１１/６　１２/１８

【水曜黙想会】（第３水曜日）（午前 10 時～午後 4 時）

１１/１７　１２/１５
（１１/１７　カルメル宣教修道女会　Ｓｒ．ロサ）
他すべて　中川博道神父

【カルメルの霊性】（午後５時～午後４時）中川博道神父

十字架の聖ヨハネ１２/１１(土)～１２(日)

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）一般可

１１/８(月)～１７(水)　中川博道神父
１２/２７(月)～１/５(水)　中川博道神父

【待降節黙想会】（午後５時～午後４時）中川博道神父

１２/４(土)～５(日)

【祭日のミサに参加するために】

＊＜クリスマス＞

１２/２４～２５

チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０

（講話なし 食事つき）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

キリスト教放送局 **FEBC** 2021.10〜2022.3

2021年秋冬 番組案内

AMラジオ放送 **AM1566kHz** 毎夜9:30〜〈全国放送〉

インターネット放送 **www.febcjp.com**〈毎日更新〉

日

夜9:30〜

全地よ 主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

[第1]日キ教会 高知旭教会

[第2]日基教団 石動教会

[第3]ホーリネス教団 東京中央教会

[第4]日基教団 小岩教会

[第5]日基教団 久万教会

[第1、2、5]夜10:27〜
神からのメッセージ
グレゴリオ聖歌
橋本 周子
聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長

[第3、4]夜10:27〜
聖歌を味わう(再)
[10〜12月] テゼ
['21.1〜3月] 正教会

月 火 水 木 金

[月〜金] 夜9:30〜
FEBC TODAY ー今日の聖書・今週の讃美歌ー
恵子の郵便ポスト
FEBCメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

夜9:48〜
聴く信仰
「いのち」をいただく御言葉黙想
山内十束
カトリック・御受難修道会 宝塚黙想の家司祭

新 夜9:47〜
ダビデのひこばえの到来
竹森満佐一
日基教団元牧師

夜9:47〜
嘆きに応える神の御言
金田聖治
日キ教会 上田教会牧師

夜9:47〜
Session ーイエスのTuneに合わせて
早矢仕宗伯 「NCAMイエスの風」牧師
塩谷達也 ゴスペルシンガー
長倉崇宣

夜10:14〜
Echo of Voices
長倉崇宣

夜10:14〜
主に向かって歌おう
飯 靖子
日基教団霊南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:11〜
五十嵐ジュンの The Contemporary Christian Music

新 夜10:14〜
主よ、人の絶望を担うキリストよ
関野和寛
日本福音ルーテル教会牧師、チャプレン

夜10:28〜
御足の跡を
小池与之祐
日基教団 神の愛キリスト伝道所牧師

夜10:28〜
FEBC Sprout!
長倉崇宣

夜10:28〜
ふらっとトーク
中川信一 長倉崇宣

夜10:28〜
聖書を開こう
山下正雄
RCJメディアミニストリー代表

[第1]夜9:37〜
イエスとの対話の旅 ー現代霊性神学講座
中川博道 カトリック・カルメル会宇治修道院司祭

[第1]夜10:25〜
外からの「声」 ーFEBC HANGOUT!

[第2]夜9:37〜
イエスの、ことばの、その根(再)
雨宮神父の福音書講座
雨宮 慧 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

[第3・4]夜9:37〜
生きるとは、キリスト
小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会牧師

[第3・4]夜10:20〜
MeguのCCM insight!

土

夜9:30〜
ボンヘッファー著『共に生きる生活』を読む(再)
江藤直純 ルーテル学院大学前学長
吉崎恵子

夜9:53〜
Kishikoのひとりじゃないから

[第1〜3]夜10:04〜
コーヒーブレイク・インタビュー

[第4・5]夜10:04〜
交わりのことば

新 夜10:31〜
聖歌を味わう
[10〜12月]
テゼ・和解のうた
植松 功
['21.1〜3月] 正教会
マリア松島純子

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２１年 ― 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、
イエス様のように生きること」

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１４日　柔和な師イエスに習う(マタイ１１・２９)
２月１１日　謙遜な師イエスに習う（マタイ１１・２９）
３月１１日　十字架を背負っているイエス様に従う（ルカ１４・２７）
４月　８日　神の国でキリストと共に食事の席に着く（ルカ２２・３０）
５月１４日　給仕するイエス様に学ぶ（ルカ２２・２７）
６月１０日　「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
（ヨハネ１４・３４）
７月　８日　祈るイエス様に習う（ルカ１１・１）

＊　＊　＊

９月　９日　「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う（マタイ４・２４）
１０月１４日　「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う（マタイ４・２４）
１１月１１日　ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に（ルカ７）
１２月　９日　「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」（ヨハネ１４・３）

※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
広島サダナⅠ&ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	11/20(土)17:30-23(火・祝)16:00 *通いも可	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付デスク 082-239-0034
入門Ｂ	11/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
名古屋入門Ｃ	12/4(土) 9:30-17:00	Fr植栗	聖霊会　八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
広島サダナⅡⅠ	*2022 年* 1/6(木)17:30-10(月・祝)16:00	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付デスク 082-239-0034
入門Ｃ	1/16(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ	1/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	同上
札幌フォローアップ	1/27(木)9:00-28(日)18:00	Fr植栗	場所については受付担当までお問合せをお願いします。	本間　攝子 080-3260-1864 不在時は、山崎　有紀 090-4720-2157
札幌サダナⅠ&ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	1/29(木)9:00-28(日)18:00	Fr植栗	同上	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。
※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax ： 042-325-7554

★変更になる可能性があります。

●入門Ｃへの参加…入門Ａまたは入門Ｂを終えていること。
●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの
指示により、当分の間中止となりました。
再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

＊前回、お祈りをお願いしていた「祈りの会」のスタッフ山藤誠司さんは、膵臓癌のため、8月17日（火）に帰天されました。癌の知らせを受けたのは6月でしたので、2ヶ月余でこの世を去ったことになります。享年59歳でした。死の二週間前のメールの最後に、「私の命を与えてくださった、神さまに感謝です」とありました。山藤さんが主のもとで永遠の安息に入られるようお祈りください。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　・・・つぶやき・・・

いま、ここで…目覚めて

典礼暦年、最後の月が来ました。11 月 28 日（日）からは、また新たな典礼暦年の新年が待降節第一主日として始まります。

ここ数年、典礼暦年の年末年始にまつわるミサの福音個所が気になりつづけています。典礼暦の終わりと初めに読まれる福音個所は、必ず「目覚めていなさい」のメッセージが響きます。

毎年、ルカ 21 章 34～36 節「人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい」が典礼暦最後の日に読まれますが、今年は翌日 28 日 C 年の待降節第一主日の福音としても繰り返されます。

待降節第一主日の A 年はマタイ 24 章 37－44 で、外面的には同じように生きているようでも、目覚めているか否かによって人生の結果は全く変わることを警告します。また、B 年には、マルコ 13 章 32-37 のイエスの説教の結論が読まれ、「あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい」と結ばれます。

また、全ての典礼の中心である『復活徹夜祭』においても、「徹夜」の意味は「目覚めていること」が中心にあります。

ミサを中心にした典礼を祝うことは、わたしたちがおかれているそれぞれの場で、また、それぞれの時の刻みの中で、いつも目覚めて主イエスと出会いつづけることに、力強く招かれていることに気づかされます。

たとえコロナ禍パンデミックの、一見、すべてが暫定的な時のように思える日々であっても、わたしが置かれている「いま、ここ」に、目覚めて主と出会い、主と共に御父への道を歩む人生の本番があることを、心に銘記したいと思います。

典礼暦年の新しい年を祝福のうちにお迎えください。　　(Fr. 中川博道)

DECOR

REGINA CARMELI